

〔顯廣王記〕安元三年○治承元年四月十八日丁亥未刻辻風人屋少々吹破自神泉池如筵者出上順風飄飄其色墨々無落墮所遂差辰巳方飛去云々卽入雲了閭巷云龍王上天也去長承之比有此事天下異也云々

〔源平盛衰記十一〕旋風事

六月○治承三年十四日旋風夥吹テ人屋多ク顛倒ス風ハ中御門京極ノ邊ヨリ起テ坤ノ方ヘ吹以テ行平門棟門ナドヲ吹拂テ四五町十町持行テ抛ナドシケル上ハ桁梁垂木コマイナドハ虚空ニ散在シテ此彼ニ落ケルニ人馬六畜多ク被打殺ケリ屋舎ノ破損ハイカバセン命ヲ失フ人は多シ其外資財雜具七珍萬寶ノ散失スルコト數ヲ知ズコレ徒事ニ非ズトテ御占アリ百日ノ中ノ大葬白衣ノ怪異又天子ノ御愼殊ニ重祿大臣ノ愼別シテハ天下大ニ亂逆シ佛法王法共ニ傾兵革打續飢饉疫癘ノ兆也ト神祇官并陰陽寮共ニ占申ケリ係ケレバ去ニテハ我國今ハカウニコソト上下歎アヘリ○平家物語爲二五月十二日事

〔玉海〕治承四年四月廿九日辛亥今日申刻上邊三四條廻飄忽起發屋折木人家多以吹損云々又同

時雷鳴七條高倉邊落云々○中略又白川邊雹降又西山方同然云々五月四日乙卯陰陽大允安倍

泰茂來行百性○性恐怪誤祭於南庭此去廿九日飄風事持占文依爲希代事續加之兵有敗之占尤可

恐事歟

〔方丈記〕治承四年卯月廿九日中御門京極の程より大なる辻風起りて六條わたりまでいかめしくふきける事侍き三四町をかけて吹まはるまゝに其中にこまれる家ども大なるも小さきも一として破れざるはなしさながらひらにたふれたるもありけたはしらばかり残れるもあり又門の上を吹はなちて四五町が程にをき又垣をふきはらひて隣とひとつになせり況や家のうちの寶數をつくして空にあがり檜皮葺板の類ひ冬の木のはの風に亂るゝが如し塵を烟の